

令和7年度「市内の景観や都市デザインに関するアンケート」 集計結果の活用状況

アンケートテーマの担当部署が、アンケート結果をどのように受け止めたのか、事業にどのように活用しているのかなど、集計結果の活用状況をご紹介します。

1 アンケート結果の事業等への活用状況

「Q1 あなたが横浜の魅力だと感じるものを3つ選んでください。」の質問に対して、最も多かった回答は「イ 街並み・景観（夜景を含む）」で、85.7%を占めました。この結果を踏まえて、更なる景観の魅力を重視し、事業計画に反映しました。

また、「Q16 山下公園でインタラクティブ（光が人の動きに反応して動くような演出）なプロジェクトを実施しましたが、この演出で夜景の魅力が向上したと思いますか？」の質問に対して、68.7%の方が「ア 思う」、「イ やや思う」と回答があり、初の取組ながら、概ね良い評価を得られました。その結果を参考に、令和7年度も引き続き、山下公園をコアエリアの一つとして、インタラクティブな演出を実施します。

2 アンケートを実施した感想

「Q12 ヨルノヨ 2024を見に行きましたか」の質問では、ヨルノヨを知っていると回答した方が 70.6%と認知度が高かったこと、また「Q13 ヨルノヨ 2024をご覧になって、横浜都心臨海部の夜景の魅力が向上したと思いますか」の質問では、「ア 思う」、「イ やや思う」と回答した方が 80.8%と高かったことは、当イベントが夜景の魅力向上に寄与し、市民の皆様から良い評価をしていただけたことは、大変励みになりました。

これらの結果を踏まえて、より「魅力的」と感じられるような演出とし、夜の賑わいづくりに繋げていきたいと考えています。

さらに、「Q2 現在の横浜市の景観について、総じてどう感じますか。」の質問では、「ア 良い場所が多い」、「イ どちらかというと良い場所が多い」と回答した方が 78.3%と高かったことから、本市の景観政策に一定の効果が得られていることが分かりました。

「Q4 横浜市では魅力的な景観形成をすすめるために様々な景観制度（景観計画や都市景観協議等）を整備しています。知っているものを選択してください。」の質問に対し、「オ 知らない」が 55.4%と最も高かった。一方、「Q5 横浜らしい景観を作っていくためにはどのようなルールが大事だと思いますか。」の質問に対し、「カ 特に必要ではない」が 1.3%と最も低かったことから、既存の景観制度は知らないものの何らかの景観制度が必要と考える市民が多いことが分かりました。

3 担当部署のeアンケートメンバーへのメッセージ

このたびは、アンケートにご協力いただきありがとうございました。自由記入欄も含め、貴重なご意見を多数頂き、大変参考になりました。今後も、市民の皆様にとって魅力的と感じられる景観形成の推進により一層力を入れていきます。

引き続きX（旧Twitter）などを活用し、都市デザインや景観に関する取組や事業の広報を行っていきますので、ぜひ下記の都市デザイン室X（旧Twitter）アカウントのフォローをお願いします。

【都市デザイン室X（旧Twitter）:@yokohama_ud】（都市整備局都市デザイン室、景観調整課）

令和7年度の「ヨルノヨ」は、12月4日から12月30日まで開催します。日本新三大夜景都市にも選ばれた横浜で開催する、国内最大級のイルミネーションイベントを、ぜひ現地でご覧ください。（にぎわいスポーツ文化局にぎわい創出戦略課）

担当：都市整備局都市デザイン室・景観調整課

にぎわいスポーツ文化局にぎわい創出戦略課

ヨコハマ e アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。